

令和2年1月25日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第14期
「京都教師塾」

模擬授業「小学校における教科学習 ～自ら学ぶ力を育む授業づくり～」 講師 居林 晃一郎 主任指導主事



1 全体会

居林先生のお話を聞いて、道徳科の授業で大切にすべきこと、工夫の仕方が分かった気がする。まず一つ目に発問の工夫である。子どもたちの葛藤やゆさぶりを促すような発問をしなければならないということで、子どもたちの心の変化が大事だということに気がついた。2つ目はアウトプットの方法である。道徳ノートやワークシートを用いて「書かせる」こと、そしてペア・グループ・全体などで「話させて」交流すること、そのような方法を通して、思考の深化・表出の手立てを考えることが必要なのだと学んだ。3つ目に、板書の工夫である。私は、最初から順番に授業を進めていく中で板書も進めていくものだと思っていたので、最初からカードを貼っておくアイデアには大変驚いた。教員が学級の子どもたちのことを考えて意図的にそのようにするのなら、そのような方法もありなのだと知った。

2 分散会

重要だと思ったところはみんなよく似ていて、工夫の仕方を学んだということであった。今回の「一人一人の道徳性を育む授業づくりとは？」というテーマが難しく、言葉ではあまりうまくまとまらなかったが、考えとしてはまとまって良かった。「クラスの状況に合わせた（一人一人の状況に応じた）授業であることは大前提で、発問や問いかけ方を工夫し、交流で共有することを通して、考えを深め、新たな気づきや発見に気づくような授業にしなければならない」ということにまとまった。考えが変わった・変わらなかったに関わらず、変わらなかったという気づきも大切に、考えたということがすごく重要なのではないかと考えた。

3 まとめ

私は教育実習で2回道徳の授業をした。良かった点もあるが、良くなかった点もたくさんあり、今回のお話で聞いたことを、また次回行う時には意識して授業づくりを工夫していきたいと思った。

教師塾の全体交流でも、「どのように発言すればよいか分からない」「私の考えをほかの人はどう思うだろうか…」「発言する勇気がなかなか湧いてこない」などと考える方がいらっしゃるかもしれません。まして内面を本音で語り合う道徳科の時間となれば、子どもたちもおさらのことだと思います。本音で話し合える環境や雰囲気をつくるには、ある程度の時間と地道な取組が求められると思います。内面を表出させたいければ、挙手による指名だけでなく、「あなたはどのように思いますか？」と指名したり、「なぜ？」と重層的発問（切返し）をしたりすることもできます。また、自分の気持ちを可視化する方法もあります。全体交流の場で挙手だけに頼ってはいは、いつまでも話し合いに参加できない子どもがいるということです。ただし、それができるためには、前提としてお互いに本音で話し合える学級、みんなで話し合ってみたいと思える学級に育っていることが条件です。

模擬授業「生きる力を育む道德教育 ～自らを律する力を育む授業づくり～」 講師 角田 千里 指導主事



1 全体会

道德の授業を行う前に、ゴールのイメージを持っていることの必要性を言っておられた。このイメージは、道德の授業1コマで終わってしまうのではなく、どのような大人になって、どのような生き方をして欲しいかまでイメージする必要があることが分かった。また、道德は教師が一方的に教える科目ではなく、教師も子どもから学ぶ心を忘れず、一緒に成長していく科目であることが分かった。このような道德を達成するためには、自己肯定感がもてる学級作りが大切であると分かった。

2 分散会

私が一つ大事だと感じたことがあった。それは、「道德の授業で生徒に対してモヤモヤとした感情を残させる」ことである。なぜなら、このモヤモヤが中心となって判断力や心情が変わっていき、実践につながっていくのではないかと考えた。もし、その場で完結させてしまうと子どもは忘れてしまうと考えるからだ。モヤモヤを持たせることで、道德を人生の分かれ道の分岐点にしていけると考えた。

3 まとめ

私は中学校の教員を目指している。そのため、教員になった際には道德を教えていく必要がある。でも、今のままでは授業を行える力は身に付いていない。より多くの授業を見て、授業構成の方法や発問の仕方を身に付けていく必要があると考えた。さらに、道德で自分の人生を教材として語れるように、多くの経験をしていくべきだと考えた。

子どもも一人の人。自分に謙虚さを、全ての人（子どももちろん）に尊敬の気持ちをもって接することで、お互いがさらに人として高まります。また、その姿から子どもも学びます。

道德の授業でも、教科書だけでなく他の教材として、新聞・絵本・写真等々を目の前の子どもたちに「ねらい」に向けてわかりやすいものがあれば使うこともあります。その中に、自分の生き方、伝記等も「ねらい」に迫る有効な教材となるなら使えます。目指したいですね。



分散会の様子

回を重ねるごとに、思いや考えを伝える力が身に付いてきたのではないのでしょうか。



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「子どもたちの未来を共に築く」を実践しましょう！

